

## 次世代から見る今と、気候変動の世界

今回は、つるエネルギーでリサーチアシスタントをしてくれている、平春来里さんをインタビューします。彼女は現在、名古屋大学環境学研究所博士後期過程に在籍中で、「風力発電と地域社会—開発のための地域の受容性—公平性の観点から」をテーマに研究活動を行っています。

## 風車との原体験と、説明会での出来事



つるエネ：今日はどうぞよろしくお願ひします。

平さん：よろしくお願ひします。

つるエネ：平さんは1998年生まれということで、いわゆるZ世代ですよ。若い人たちが何を考え環境やエネルギーに関心を持っているか、ということ掘り下げていきたいと思ひます。早速ですが、平さんは今、名古屋大学の博士課程に在籍されて、エネルギー政策を研究している。そもそもな

取材に応じてくれた、平春来里さん

ぜ、このフィールドに関心を持ったですか？

平さん：はい。おそらく幼少期の経験が大きいと思ひます。私の父が県の環境カウンセラーのための講義を受けるために、岩手にある「県民情報交流センター」という場所に行き、私もそこについていきました。その施設では、自転車で電気を発電する体験が出来たり、各国1人あたりの年間CO2排出量の重さを持つ体験ブースがあったり、環境問題を身近に感じることが出来る場所でした。この経験が、大きいと思ひています。

家でも環境について議論することが多かったです。環境問題について考えると、自分の未来に漫然とした不安を感じつつも、むしろそれを知らなかったり、関わりをもたない方が、もっと怖いと思ひて、自分で学ぶようになった気がします。

環境問題に関心を持ったもう一つのきっかけは、祖母の家がある山形県酒田市にあります。そこは風車が多い町で、自分が学んでいた環境問題に対する解決策としての自然エネルギー、つまり風力発電が盛んな場所でした。

つるエネ：なるほど。緑のある場所に風力発電があり、人生を生きる過程で環境問題に向き合う時間が多かったと。今、風力発電を研究されているのも、酒田市がきっかけですか？

平さん：はい、そうです。風車を作りたいなと思ひて、小学生の時に近くにある立川町の風車について自由研究で調べました。カッコいいし、環境負荷も少ないし、まちづくりにも活かされていて、悪いイメージはなかったですね。

つるエネ：なるほど。でもそのあとに、大きなきっかけがあったんですね？



酒田市の風力発電所の風景

平さん：あれは東日本大震災以後なのですが、2012年に地元で風力発電事業をやるということで説明会がありました。その説明会に16歳の頃に行ったのですが、大人が立ち上がってケンカをしていたんですね。あれは強烈な衝撃でした。風力発電はいいなと思ひていたのですが、世の中にはそう思わない人もいます。それを実感した瞬間でした。

つるエネ：なるほど。高校生のときに、目の前で大人が本気で怒鳴りあう状況を見させられたら、確かに考えが変わりそうですね。

平さん：そうですね。なんで怒ってるんだろうという疑問が大きくて、調べるきっかけになりました。グローバルでは、環境問題とか地球温暖化が議論されている中で、地域では鳥類保護という要素がぶつかり合っていました。その後、私は大学生になり、電気電子工学・水素発生の研究をすることになったのですが、この説明会の体験に根差した研究テーマにしたいと思ひ、今はグローバルとローカルのぶつかり合いの間に入るような研究をしています。

つるエネ：具体的には、どういった研究を？

平さん：修士課程では、上の酒田市の説明会を紐解く作業をしました。当時の行政が考えていたことや、手続方法などを分析しました。その中で思っただけは、必ずしもグローバルとローカルはぶつかるわけではなく、温暖化が砂防堤にダメージを与え、松などの環境に影響を及ぼしたりもしている。そういう部分を丁寧に記述したものとなっています。

## なぜ、環境問題は解決できない？

つるエネ：そんな平さんに、ざっくりとした質問をしたいのですが・・・なぜ環境問題は解決されないんですかね？笑

平さん：ざっくりとした質問ですね。笑 私もしかりませんが、東日本大震災以降の「卒原発」というフレーミングがありました。それに対する賛成・反対というフレームがありますが、そういった大雑把な枠組みだけでは力不足なところがあるのかなと思ひています。個人が何を考えて行動しているかをもっと掘り下げる必要があると思ひます。そこで出てきた個別の利害調整だったり、あるいはベネフィットを通してより多くの人を結びつけることも必要で、そのためのコミュニケーションコストを大事にすることなんだと思ひます。地域社会で議論をしていく過程で答えを見出していくということなんだと思ひています。同じ地域という船に乗っているという大前提を意識することも重要なポイントだと思ひています。

一方、脱炭素の取り組みについて調べると、暗い未来しか想像できないこともあります。地球温暖化と言ひながら、戦争が始まったり、化石燃料の依存が一向に減らなかつたり。自分たちの未来に希望を持ってない現実もあります。でも、もうそこはある意味では受け入れながら、これからは世代間の不公平を減らしながら次世代の未来を犠牲にしない生き方と振る舞いを、最後まで通していくことが必要なのかなと思ひています。

つるエネ：なかなか重たい言葉ですね。私たちつるエネも、現実と向き合う中で同じような感覚かもしれません。

話変わるのですが、だから今、断熱ワークショップをしているんですね？笑

平さん：すごい唐突ですけど、そうです笑。大学の院生室の断熱DIYをしています。業者に見積もり依頼をしたら十数万程度したので、それならば自分でやっています。実はこの断熱DIYで有名なのは、長野県にある白馬高校です。ここの子たちも、温暖化の影響で雪が少なくなったことがきっかけで、学校の断熱化に取り組んでいます。私も、やれることをやってみよう！という思いでやりました。

つるエネ：なるほど！大事な一歩ですね。寒さはよくなりましたか？

平さん：多少は良くなったと思ひます。この経験を通して、電気のことでもそうだけど、熱も考えないとけいな。断熱の過程で、先ほど紹介した「エネルギーまちづくり社」のことも知り、まだまだ諦めていない人、地域、世界があるなと思ひると、私も元気に未来と向き合いたいと思ひています。

つるエネ：少子高齢化・人口減少。日本は課題先進国ですからね。夏休みの宿題を後半一気に終わらせると思ひて、やれることをやっていくということに尽きるのかもしれないですね。

平さんとお話させていただくと、いつも前向きなエネルギーをもらいます。今日は色々教えていただき、ありがとうございました。今後とも、リサーチアシスタント含め、よろしくお願ひします。

平さん：こちらこそ、ありがとうございました。



最近視察した、モンゴルでの風力発電所